

原発 ゼロ にむかって

2011年12月16日 No.5

<http://www.tokyoiminiren.gr.jp>

編集・発行／東京民医連事務局 tel: 03-5978-2741 fax: 03-5978-2865 mail: sien@tokyoiminiren.gr.jp

放射線被害から子供と区民を守る学習会 城南三法人のサポートで大田革新懇が開催

11月25日(金)、東京大田区の蒲田消費者センターにおいて、大田革新懇『放射線被害から子供と区民を守る』学習会が行われました。講師は城南福祉医療協会・大田病院の中泉聡志医師(原爆症認定訴訟東京医師団、反核医師の会)がつとめ、城南保健生協の組合員をはじめ、地域の保育園から園児のお母さんたちも含め、総勢48人が参加しました。

中泉医師は「原子力発電とは」「外部被ばくと内部被ばく」「内部被ばくを防ぐために」などの内容を中心に、1時間をこえての講演となりました。会場からは、特に小学生以下の子供を持つ親御さんから、食事に関する件、最近の体調変化、今後の健康診断の必要性などの質問が次々に出されました。中泉医師は質問に丁寧に答えるとともに、「原発も核兵器もない社会をつくるために、社会を変革していくことも大切」と訴えました。



放射線測定器の貸し出しも

講演後、城南医薬保健協働の神岡社長より「放射線測定器貸し出し」について説明が行われました。城南医薬保健協働の各薬局と城南保健生協に計9台ある測定器を、組合員さんや大田区・品川区内の諸団体に貸し出します。対象は町会や保育園・学校PTAなどにも広げ、地域住民の不安の声に応えるとともに、測定結果は城南医薬保健協働本部にて集計し、その結果をまとめて報告していく予定です。〈城南福祉医療協会・土井〉

「医師として被ばく者にどう向き合うか」

肥田舜太郎先生講演

11月20日(日)、日比谷野外音楽堂にて震災復興・医療再生をテーマに「ドクターズ・デモンストレーション」が行われ、医師・歯科医師・医学生800人、全体で2,500人の参加で大きな成功を収めましたが、この行動に先立つ企画として、肥田舜太郎先生による学習講演「医師として被ばく者にどう向き合うか」が開かれました。

肥田先生は、原爆投下直後の広島の様子、GHQ占領下で医師も患者も監視の下で自由に診療できず悔しい思いをしたこと、そして今も毎日新たな被ばく者が生まれていることについて話されました。

最後に参加者(多くは医師・医学生)へのメッセージとして、「これから福島で被ばくした方が受診し始めると思うが、患者は検査結果だけで『病気じゃない』と言われるのが一番辛い。親身に、人間を大事にする医療を行ってほしい」「皆さんの頭上には民医連という星が輝いている。目の前の生命をけっして粗末にしてほしくない」と結びました。



250人収容の会場は満員に